

(別紙1)

事業報告書

事業名	子どもたちの自己肯定感を育むための人材育成プログラム
趣旨・目的	<p>文部科学省の全国学力テストでは学力テスト以外に、子どもの生活習慣全般のアンケートがあり、ここでは「自分には、よいところがあると思う」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた小学生・中学生の割合が香川県は全国ワーストであった。</p> <p>香川が好き、楽しい思い出がたくさんある、そう思える経験を積むことが、ひいては香川県内の子どもの自己肯定感を育むことにもつながると考えている。2022年春に香川県の素晴らしい伝統・工芸・自然・歴史・人と接する機会や様々な体験ができる施設である『讃岐おもちゃ美術館』を高松に開設予定であり、そこで今回の事業では、この『讃岐おもちゃ美術館』の場において、親子と関わるボランティアの人たちが、これまでわははネットが培ってきた「保育」や「子どもの発達」の目線のスキルに加えて「香川のすばらしさを伝えられる」ことや「より多くの経験体験を積むことができる」ための人材養成プログラムを開発実施する。</p>
事業実施の地域及び対象者	<p>讃岐おもちゃ美術館を拠点に香川県内で活動する子育て支援及び子どもたちの自己肯定感を育むために香川の魅力を伝えたり体験したりする機会を支援する技術を身に着けたいと持っている大人約120名</p> <p>→実際は2022年春に讃岐おもちゃ美術館開館後は年間5万組程度の親子と直接かわりその魅力を伝える伝道師となるので年間5万組の親子が対象ともいえる</p>
事業内容	<p>○人材育成ツールとして子ども達に伝えたい香川の魅力を発信していくための教材動画として、専門家や職人の方に語っていただく動画プログラムを次のプログラムで15本制作した。</p> <p>①&lt;おもちゃ美術館とは&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【1】</p> <p>②&lt;おもちゃ美術館のデザイン&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【2】</p> <p>③&lt;庵治石について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【3】</p> <p>④&lt;高松子ども食堂ネットワークについて&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【4】</p> <p>⑤&lt;ひとり親支援について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【5】</p> <p>⑥&lt;鬼無盆栽鑑賞のツボ&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【6】</p> <p>⑦&lt;香川の木について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【7】</p> <p>⑧&lt;松盆栽の魅力について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【8】</p> <p>⑨&lt;讃岐かがり手まりについて&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【9】</p> <p>⑩&lt;香川漆器について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【10】</p> <p>⑪&lt;さぬきのおむすび山について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【11】</p> <p>⑫&lt;東かがわ手袋産業について&gt;子ども達に伝えたい香川の魅力【12】</p>

⑬<張り子の技法について>子ども達に伝えたい香川の魅力【13】

⑭<子育て支援について>子ども達に伝えたい香川の魅力【14】

⑮<えがおもくもく!!讃岐おもちゃ美術館>子ども達に伝えたい香川の魅力【15】

⇒まずは讃岐おもちゃ美術館の学芸員の皆さんへの、レクチャー動画としてアップしているが、今後広く一般にも公開し、子育て家庭や子どもたちも見られることを可能とする。それによって「香川ってすごい」「ここで生まれてよかった!」と多くの人に伝えることができるものと思う。

○子どもへのかかわりと香川の魅力発見ツアー

次の2つの行程を組んで実施した。

A コース 塩江上西小学校で「木のお話」と「木のくつべらづくりワークショップ」を実施。お昼ご飯は地元の食材をふんだんに使った、上西のお母さんたち手作りの里山ご飯。午後は、盆栽の郷で盆栽について学び、その後石匠の里公園に異動し、庵治石について学んだ。

参加者 15名

協力 香川県東部林業事務所（木のお話）

岩井つくしさん（くつべらワークショップ）

上西地域のお母さん（昼食）

高松盆栽の郷

石匠の里公園

Bコース 実際の親子との関りを学ぶために、令和3年10月に開館している徳島木のおもちゃ美術館を訪問。途中、讃州井筒屋敷で和三盆づくりの体験と、革の端材を使っのワークショップを体験。徳島木のおもちゃ美術館では、実際に親子に関わっているおもちゃ学芸員の方から、現場に立ってみての苦労や喜びについてお話いただくとともに、質問にも対応いただく時間となった。

参加者 30名

○東京おもちゃ美術館 スタッフ研修 2泊3日

1月21日～1月23日に実施。当初スタッフ7名のスタッフが研修参加予定であったが、コロナの状況が再び心配となるにあたって一部スタッフは参加を断念。結果、5名のスタッフの参加となった。研修実施に当たっては、コロナ対策に十分に配慮の上、東京滞在中も会食なしホテルの部屋で個別に食事、香川に戻ってからは、全員PCR検査を実施という厳戒態勢で臨んだ。（実際は6名で参加、そのうち1名は転勤先の新潟よりの参加となったため、本補助対象からは除いている）

事業実施期日	<p>○動画プログラム制作  9月 動画制作打ち合わせ  9月～1月 取材先アポ取り・取材・撮影  2月 おもちゃ学芸員の方へ動画視聴の案内～レポート提出</p> <p>○バッチ制作  1月 デザイン～制作</p> <p>○讃岐の魅力発見バスツアー  Aコース 12/23 (木) 9:00～16:45  Bコース 1/13 (木) 9:00～16:00</p> <p>○東京おもちゃ美術館スタッフ研修  1月21日～1月23日</p>
事業実施の果効	<p>今回は、讃岐おもちゃ美術館という場を通して、子どもたちが『香川＝郷土の魅力』を感じ、たくさんの人に見守られていることを実感できることが自己肯定感を育むことにつながると考えた中で、その経験を支える人たちである、ボランティアの育成を目標に掲げてきた。</p> <p>バスツアーを経験し、同じボランティアを志す仲間同士で、同じものを見て、感じて、経験する中で、自分の力を讃岐おもちゃ美術館で活かしたい！その想いは目に見えるように強く育ってきたことを感じている。</p> <p>ツアーの帰路のバスの中で感想をお聞きすると、「私たちの讃岐おもちゃ美術館では・・・」という当事者性をもった感想が増え、オープンを心待ちにしている様子が伝わってきた。</p> <p>動画プログラムのレポートについても、小さな枠にあふれるほどの感想を伝えてくださったり、枠に入りきらず別紙を添付してまで提出くださったりする方もいらして、皆さんの気持ちが伝わってきた。</p> <p>東京おもちゃ美術館のスタッフ研修においては、親子を迎え入れる際のノウハウや、安全に運営していくためのヒヤリハット、業務全般においてスタッフが体験しながら学ぶことができ、より今後の実施イメージを具体化することができた。</p>
備考	

(別紙2)

## 収 支 精 算 書

【収入】

(単位：円)

項 目	金 額	説 明
補助金交付金額	1,077,000	
自己資金		①+②+③+④
①参加料収入	90,000	@2,000×45名
②会費等		
③寄附金等		
④その他	518	
助成金等収入		①+②+③+④
①補助金収入		
②委託金収入		
③その他		
その他資金収入		
合 計	1,167,518	

【支出】

項 目	金 額	説 明 (使途、精算根拠等)
報償費	495,000	動画制作 15本
報償費	48,420	取材先謝礼
旅費	244,720	東京スタッフ研修旅費
印刷製本費	32,110	チラシ制作、印刷費
材料費	72,870	ピンバッチ、バスツアー訪問先
通信運搬費	11,508	郵送費
使用料及び賃借料	262,890	バス借り上げ、振込手数料
合 計	1,167,518	

(注) 交付決定を受けた事業の収支について記入してください。